

タイ感染対策国際研修

～グローバル視点で学ぶ大阪府内 ICN 連携強化プログラム～

研修概要

1. 研修名

- ・ 「タイ感染対策国際研修～グローバル視点で学ぶ大阪府内 ICN 連携強化プログラム～」

2. 目的

本研修は、東南アジア地域での感染症対策の最前線を実地で学ぶことにより、輸入感染症・薬剤耐性菌 (AMR) への実践的対応力を養うことを目的とします。

さらに、研修を通じて形成されるネットワークをもとに、大阪府内の ICN 同士が平時から連携し、有事に即応できる広域地域連携体制の構築をめざします。

タイの医療機関における感染対策の仕組みや文化的背景を理解し、国際的な視点と現場対応力を兼ね備えた ICN の育成を図ります。

3. 研修の特徴(本研修ならではの魅力)

- ・ 輸入感染症への即応力強化: 日本では遭遇しにくい病原体・感染対策を現地で直接体験し、大阪での輸入感染症対応力を底上げします。
- ・ 大阪府 ICN ネットワークの強化: 渡航前の事前準備、現地での共同研修、帰国後報告会を通じて、府内 ICN が継続的につながり支えあう仕組みを構築します。
- ・ 国際的視野の獲得: タイの医療システムや文化、感染対策の実践を直接学び、日本との比較を通じて多面的な気づきを得ます。
- ・ 現地 ICN との交流と共学: 現地 ICN とのディスカッションを通して、実践的な課題解決力と国際感覚を磨きます。
- ・ フィールドで学ぶ実践型研修: 大学病院・市中病院の両方を訪問し、異なる医療環境下での感染管理を体感します。
- ・ 学びの共有とアウトプット: 帰国後は研修成果を所属施設や地域研修に共有し、大阪全体の感染対策力向上に貢献します。

4. 研修目標

- 1) タイ王国における医療政策、社会インフラ(上下水道等)、AMR 対策を理解し、日本における薬剤耐性菌対策の将来像と病院 ICN の役割を展望できる力を養います。
- 2) タイにおける医療関連感染(HAI)サーベイランスの背景や運用方法について学び、日本において効果的なサーベイランス手法を検討できるようにします。
- 3) 国際的視野を持ち、また、大阪府内の ICN ネットワークを強化することで、自施設および地域全体における感染対策のあり方について俯瞰的に設計できる人材を育成します。

5. 対象者

大阪府内で従事する感染管理認定看護師、感染症看護専門看護師、感染制御実践看護師等

研修生: 6 名(予定)

6. 実施時期

2027年1月10～14日(4泊5日)

7. 研修場所

タイ国内医療機関

- マヒドン大学附属ラマティボディ病院 (Ramathibodi Hospital; バンコク)
- バムラスナラドゥラ感染症研究所 (Bamrasnaradura Infectious Diseases Institute; ノンタブリー)

8. 行程(予定)

- 1日目: 関空出発 → バンコク到着、オリエンテーション
- 2日目: Ramathibodi Hospital 訪問、ICN との意見交換
- 3日目: Ramathibodi Hospital 訪問、ICN との意見交換
- 4日目: タイ国内市中病院訪問、ICN との意見交換
- 5日目: バンコク午前出発 → 関空到着・解散

9. 研修内容

- ・ 医療関連感染サーベイランスシステム
- ・ AMR アクションプランと薬剤耐性菌対策
- ・ 医療システムや社会インフラの背景と感染対策

内容詳細

日付	テーマ/トピック
DAY1	「世界の ICN とつながる! オリエンテーション&グローバル視点インストール」
	挨拶・紹介、医療政策・社会インフラ整備と感染対策システムの紹介
	AMR サーベイランス
	院内ラウンド
DAY2	「タイ医療の最前線に! タイの HAI 戦略を学ぶ」
	HAI サーベイランス、HAI 予防策の実践
	院内ラウンド
DAY3	「現場力を磨く! タイでの感染対策を学ぶフィールドワーク」
	Field trip
	発表・まとめ、挨拶・謝辞

10. 実施体制

主催: 大阪健康安全基盤研究所(企画・現地調整)

共催: 大阪大学、大阪公立大学 ICN(引率責任者)

11. 旅費・研修費用

航空券・宿泊などの旅費及び研修費の費用負担はありません
現地での移動費、食事等は自己負担です

12. 期待される成果

- ・ 国際的視野と実践力を兼ね備えた次世代 ICN の育成につながります。
- ・ 研修の準備、実施、振り返りを通して大阪府内 ICN のネットワークが強化されます。
- ・ 所属施設や地域研修へ学びを還元し、大阪全体の感染管理強化に貢献します。
- ・ 研修参加者が中心となり、府内の感染対策向上に寄与するアウトプットが期待できます。
- ・ 現地 ICN とのネットワーク形成により、継続的な国際連携の基盤が構築されます。

13. 成果の活用

- ・ 研修成果の院内・地域研修での還元
- ・ 大阪 ICN ネットワークを活用した平時・有事連携
- ・ 翌年度以降の継続的な国際連携事業への発展
- ・ 府民の健康安全を担う国際的感染対策人材の育成